助成番号：610

招へい目的：第３回畜産衛生に関する帯広ワークショップでの特別講演および高泌乳牛の栄養と繁殖の問題についての国際共同研究打合せ

外国人研究者名：Scott McDougull（スコット マクドウガル）
国　　籍：ニュージーランド
所属機関・職名：Animal Health Centre, Manager
外国人研究者招へい助成申請者：宮　本　明　夫（畜産衛生学専攻教授）

１．目　　的

本学で主催するワークショップシリーズである「第３回畜産衛生に関する帯広ワークショップ：放牧による乳牛の健康と繁殖：自然資源と人工システムのバランスを考える」の招待講演者の１人として招へいし，同時に高泌乳牛の栄養と繁殖の問題についての国際共同研究の打ち合わせを行いました。

２．期　　間

平成17年９月13日～19日

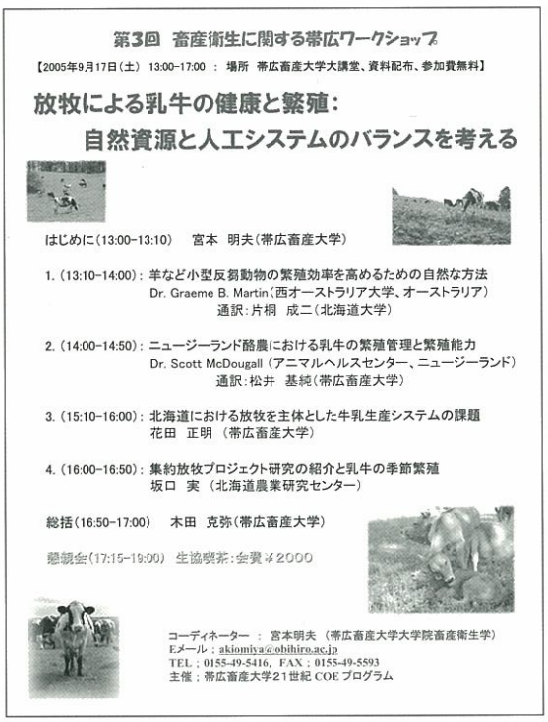
３．場　　所

帯広畜産大学

４．内　　容

本学大学院畜産衛生学専攻のメンバーを中心にシリーズとして継続的に開催している「畜産衛生に関する帯広ワークショップ」も第３回目を迎えました。今回は**「放牧による乳牛の健康と繁殖：自然資源と人工システムのバランスを考える」**と題して，放牧体系での乳牛の健康と繁殖を軸に，北海道の酪農における放牧の実態と可能性，そして問題点を整理することは意義があると考えました。放牧が基本であるニュージーランド（McDougall 博士：本後援会招へい助成）とオーストラリアから，世界的に名の知られた２名の繁殖・畜産の研究者を招き，自然資源を基盤とした乳牛とめん羊の管理システム等について話題を提供して頂きました（通訳付き）。彼らの２つの総説をわかりやすく和訳して資料集に掲載しました。続いて，２名の道内の先生が，北海道を見据えた放牧システムで考えるべき項目と課題を広い枠組みで示して頂きました。これらもカラーの資料として

掲載しました。本学大講堂を会場にして開催されたワークショップには学内外から約160名の関係者が参加しました。一連の講演から，完全に管理された現代酪農システムの方向性と，あくまで自然資源をベースにしたオセアニア型酪農畜産を対比させ，乳牛の健康について活発な議論がくり広げられました。



第3回　畜産衛生に関する帯広ワークショップ

【2005年9月17日（土）13:00-17:00 ： 場所　帯広畜産大学大講堂、資料配布、参加費無料】

放牧による乳牛の健康と繁殖：
自然資源と人工システムのバランスを考える

はじめに（13:00-13:10）　宮本　明夫（帯広畜産大学）

1.（13:10-14:00）：羊など小型反芻動物の繁殖効率を高めるための自然な方法
Dr. Graeme B. Martin（西オーストラリア大学、オーストラリア）
通訳：片桐　成二（北海道大学）

2.（14:00-14:50）：ニュージーランド酪農における乳牛の繁殖管理と繁殖能力
Dr. Scott McDougall（アニマルヘルスセンター、ニュージーランド）
通訳：松井　基純（帯広畜産大学）

3.（15:10-16:00）：北海道における放牧を主体とした牛乳生産システムの課題
花田　正明（帯広畜産大学）

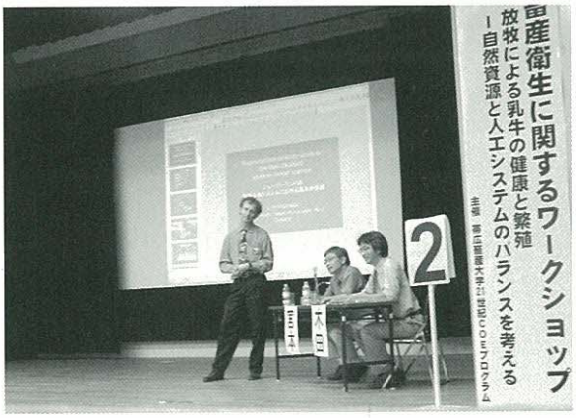
4.（16:00-16:50）：集約放牧プロジェクト研究の紹介と乳牛の季節繁殖
坂口　実（北海道農業研究センター）

総括（16:50-17:00）　木田　克弥（帯広畜産大学）

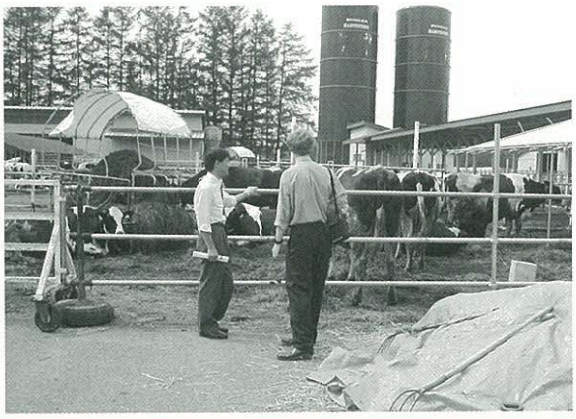
懇親会（17:15-19:00）　生協喫茶：会費￥2000

コーディネーター ： 宮本明夫（帯広畜産大学大学院畜産衛生学）
Eメール：akiomiya@obihiro.ac.jp
TEL：0155-49-5416，FAX：0155-49-5593
主催：帯広畜産大学21世紀COEプログラム

ワークショッププログラム



McDougall 博士　ワークショップ講演風景



畜産フィールド科学センターにて乳牛を視察

ワークショップに加えて，McDougall 博士と帯広近郊の優良酪農家を訪れ，飼養形態や乳牛の状態，経営状況について聞き込み調査を行いました。さらに，今後の国際共同研究の計画について詳細に議論し，現代の乳牛の健康にかかる国際調査を企画し，国際的ネットワークの構築と強化について努力してゆくことを確認しました。

最後になりましたが，当該分野の国際的な第一人者である McDougall 博士を招へいするに際して強力なご支援を賜りました帯広畜産大学後援会に深謝いたします。また，「畜産衛生に関する帯広ワークショップ」運営に協力下さった関係各位ならびにワークショップ参加者の各位に心からお礼申し上げます。